



平成29年2月9日

第47号

さくほ

ほ

2017②

議会だより



寒さに耐えて、強くなり
寒さを超えて、美しくなる
氷点下11度でも笑顔を忘れず登校

発行：佐久穂町議会
議長：浅井正昭
編集：議会広報編集調査特別委員会
印刷：(有)東城印刷佐久穂営業所
384-0697
長野県南佐久郡佐久穂町大字高野町569
TEL：0267-86-2556

[12月定例会 町の方向性を問う議論沸騰]

議員定数削減案を否決
総合計画基本構想に賛否分かれる

[一般質問は10人]

新たな総合計画はこれでよいのか
佐々木町政を振り返って

[追跡 一般質問その後どうなった]

あらゆる公共資産の現状は

議員定数削減案を否決

2議席削減提案をめぐって議論

賛成5名 反対8名 定数は14のまま

平成28年12月定例会は、12月2日から14日までの13日間で開催されました。

今回の定例会には、開会初日に井出正臣議員より「佐久穂町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について」が発議されましたが、総括質疑及び最終日の討論と採決の結果、否決されました。

提案者は提案理由を「定数を削減し、議会改革の明確な進展を示し、同時に議会としての行財政改革への寄与を実現するため」とし、現状の14の定数を、2議席削減して、12とする案を初日に提出し、会期内の議論を求めました。

提案説明では、「9月までに開催された議会改革特別委員会では、住民からの注目度の高い議員定数及び議員報酬に関しては、その変更の必要性や現状での問題点などといった議論の糸口を明確に見出すことがで



活発な議論が行われた

きずに、新たな結論に至らなかった。結果として現状のままという形になったのだが、これは現状が適正という訳ではない。」とし、定数削減を行うことでの議会機能の低下はないと説明しました。

発議に対する開会中の議員全体及び委員会による審議は行われず、一般質問後の1名からの質疑、最終日に反対者3名、賛成者2名からの討論によりそれぞれの意見が述べられましたが、議長を除く13名による採決の結果、賛成5名、反対8

第2次総合計画基本構想 に対し修正動議

第1次総合計画案を継続すべきと訴え
原案可決も賛否は拮抗、両案反対者も

名で否決されました。行政執行側からは、開会初日に佐久穂町総合計画（第二次）の基本構想の策定についても言及13件の議案と1件の承認案が提出されました。

最終日には、職員給与の変更などに関連する6件の議案が提出されました。

同日に、総合計画基本構想の策定についてに対する修正動議が倉澤治貴議員ほか2名から発議され、原案と共に質疑・討論・採決がなされましたが、原案通り可決されました。

発議者を代表して倉澤治貴議員は、提出理由として「総合計画は最上位計画であり、その基本構想は、将来の佐久穂町の姿を示すものであるべきと考え、提出された第2次総合計画はそれにふさわしくない」とし、第二次総合計画の基本構想を第1次総合計画の基本構想と同じにすべきと説明しました。

当日動議にも関わらず、質疑に1名、討論に4名が立ち、結果原案への賛成多数で可決されました。

採決に際しては、原案・修正案ともに反対という意思を示した議員もあり、議会として佐久穂町の基本となる計画策定に対して、多様な考え方を示す結果となりました。

その他、行政より提案された議案がすべて全会一致にて可決されました。

議員発議が2件あり、活発な議論が行われた反面、議会基本条例により許された反問権の利用や、議員間討論の実施には至りませんでした。

佐々木定男町長 今期での引退を表明

開会日での提案説明のあいさつでは、佐々木定男町長より、今任期限りでの引退が表明されました。

合併より12年間の任期では、財政の健全化や小中学校統合など、目標としたまちづくりは達成できたと振り返りました。



引退表明をする佐々木町長

討論！ だから、私は賛成○反対×

議案第77号 第2次佐久穂町総合計画の基本構想の策定について

第1次総合計画における基本理念を重要とするならば、町民憲章や自治基本条例等に盛り込む提案を議員からも行うべき。過去10年を否定するという訳ではなく、変化というものが新しい町を生むことを考えていかなければいけない。

井出正臣

原案賛成

修正案反対

今までの総合計画は当たりさわりのない漠然としたものというが、極めて具体的に目指す町の姿を言い表している。総合計画を補完するものとするコミュニティ戦略は手段や手法であり、基本理念や基本目標に変わるものではない。

井出清嗣

原案反対

修正案賛成

コミュニティの発展・活発化は手段と受け止められるが、手段が目的であっても、これにより目標が達成されればよいと考える。社会情勢や環境変化、新たな住民ニーズもある中で、これから10年は新たな発想で進むべき。

小宮山雅則

原案賛成

修正案反対

第2次総合計画の基本構想では、これまでの基本理念と基本目標を消し去り、冒頭に創生戦略が示す目指すまちの将来像が掲げられている。原案の将来像の部分削除し、これまでの計画の基本理念と基本目標を入れる修正をすべき。

高見澤研二

原案反対

修正案賛成

発議第8号 佐久穂町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について

定数14名がなぜいけないのか明確な根拠が示されていない。削減されれば議会機能が低下・縮小し、住民の多様な意見が議会に反映されにくくなる。議会改革研修などでも、定数・報酬の削減は本来の議会改革とは言えないと語られている。

高見澤研二

反対

定数の削減は町民の声が届かない、聞こえなくなる、議会運営に支障をきたすという声もあるが、それぞれの取り組み方次第で解消できるはず。また、議員のなり手不足による無投票を生じさせないためにも削減すべき。

佐々木正雄

賛成

民意を反映するには、可能な範囲で多くの人により議会は構成されるべき。委員会構成や事務組合派遣を考えても現在の14名という定数はベスト。定数や報酬については十分な審議と少なくとも1年以上の周知期間が必要であると考え

倉澤治貴

反対

住民参加のまちづくりの推進により、住民の意見や要望が反映されてきたことや、選挙により議員レベルの向上を図るうえでも定数は削減すべき。定数を12名にしても、議会の効率的な運営や活動日数でカバーすれば支障はない。

小宮山雅則

賛成

定数12名になることで、議員1名でも発議できることになる議会機能の強化とは関係がない。また行財政改革は、必要な事業に財源を振り向けることであり、議員数の削減は議会費用を減らせてもチェック力を弱めることになる。

井出清嗣

反対

第二次総合計画基本構想にも 自然・ふるさとと の文言を

町長

我々の心の中にしっかりと入っている

倉澤 治貴



総合計画及び総合戦略

問 平成29年度より新しい総合計画を実施するための準備が行われているが、本年度より実施中のコミュニティ総合戦略及び、昨年度より実施されている行財政改革大綱との関係は。

町長 行財政改革大綱と総合戦略及び総合計画は相互に補完し合うもので、行財政改革大綱でできるだけ財源を生み出し、総合戦略と総合計画に定める町の将来像に向け事業を展開していくイメージとしている。

国の定めたまち・ひと・しごと創生総合戦略は、人

町長 減少対策と地方創生を目的としたもので、特に人口減少の抑制は、町にとつても最も重要と考えている。

当町は、その対策としてコミュニティ戦略を中心に据え、今回の総合計画基本構想とした。

問 第一次総合計画の基本理念での自然、ふるさとといった文言を第二次の基本構想にも唱えられないか。

町長 第一次の考え方はしっかりと心の中に入っている。第二次はその上に積み上げたものと思っている。

スキー場の今後

問 八千穂高原スキー場の経営について、検討が行われているが、その内容と進捗状況は。

町長 観光施設運営検討委員会を設置し、スキー場を含む観光施設のあり方について利用・経営状況を審議検討している。本年度中に委員会として一定の結論は集約したい方向だ。

高野町用水

問 改修整備が進んでいる高野町用水だが、その進捗状況は。

町長 高野町用水の整備は県が進める北沢川の整備に大きく左右されるが、本年度、大きな追加補正をいただき、2億円を超える事業費となり、北沢川第一期工事は29年度末に完了の可能性が高いことから、高野町用水の整備工事も財源を考慮しながら、前倒しで進めることを検討している。

町営住宅入居資格条件 緩和策の検討は

町長 状況に応じて素早く柔軟に対応していくのが行政
佐々木 正雄



町営住宅等の有効活用

問 町営住宅は、住宅の種類によりそれぞれの管理条例等で入居資格条件に「現に住宅に困窮していることが明らかかなもの」という規定があるが、住宅の建て替え、改修等を計画している町民の方々が空いている町営住宅を利用できるような「緩和策Ⅱ条例改正」は考えられないか。

町長 時代というのは、常に大きく変わってきています。当時想定できなかった住民の皆さんからの要望があるならば「素早く柔軟に対応していくのが行政」であるかと思っています。

職員研修

問 職員研修の主な内容は。

町長 職員研修は、人材育成基本方針で定めた「求められる職員像、前向きに取り組むことができる職員、気遣いができる職員、相手

から「信頼される職員」の実現に向けて、職員採用から研修、評価、環境整備等総合的に実施しています。

佐久穂教育

問 9年間の独自英語力リキユラムの詳細について。

教育長 英語指導計画は、ホップⅡ前期基礎充実期として1～4年生を対象に、各学年年間35時間学習し、目標は、英語に触れる、親しむ、です。

ステップⅡ中期活用期では、5～7年生を対象で、3年間で身近な事柄を中心に、聞く、話す、読む、書く、の4領域にわたって身につける。目標は英語に慣れる、です。

ジャンプⅡ後期発展期は、8・9年生を対象として、これまで学習してきたことのまとめで、バランスよくコミュニケーションを図ることが能力を身につけると位置付けております。そして、最終ゴールは「ふるさとの良さを英語でプレゼンテーションする」事ができる、です。



町の不妊治療制度の見直しは？

町長 町内在住期間や男性・不育症も含め、検討したい

岡 部 勝 一

問 少子化対策として、町不妊治療助成事業の見直しが必要と考えるが。

町長 町内在住3年以上とあるが、見直したい。

問 対象が女性だけだが、男性についてはどうか。

町長 検討したい。

問 懐妊はするが育たない、不育症については。

町長 同様に検討したい。

問 町の条例では、特定不妊治療なのか、一般不妊治療なのか不明であるが、対象となる助成の中身は。

健康福祉課長 不妊治療に要する保健適用外の検査費及び診察費で、県の助成がある場合、その額を控除した額とします。

問 年齢の上限はどの様に考えるか。

健康福祉課長 県内、各自治体の見直し点、金額・年齢等を検討したい。

問 かかりつけ医や薬剤師の普及で、在宅医療の充実について、町の取り組みは。

町長 かかりつけ医師、薬局を持つことは、結果として医療費の削減に寄与し、重要かつ促進すべき。

健康福祉課長 佐久医師会発行の「かかりつけ医、ハンドブック」があります。全戸配布してありますが、転入された方にも、お配りさせていただいています。

問 薬局における「お薬手帳」の実態については。

千曲病院事務長 手帳は渡していたが効果が出ていない。有効活用で患者の負担減少を図りたい。

(他に、年間駆除千頭余の日本鹿等ジビエの活用についても質問。)



財政計画は、一律削減でなく、メリハリが重要ではないか

町長 選択と集中の考えで、重点事業に投資できるよう計画します

高見澤 研二



問 第二次総合計画の4つの町づくり戦略で、住民の皆さんが考える「住み続けたい町」を、どのような手段でつかむのか。

また、高齢者と障がい者の福祉には、介護従事者や家族、事業者に対する支援も含むのか。

総合政策課長 総合計画策定時と5年毎の基本計画改定時に、住民アンケートを行います。福祉の充実には、家族・事業者への支援も含まれると考えます。

問 妊娠・出産・子育て支援

援・学校教育の充実を「世代を超えたコミュニティの力で、推進する」のであれば、若者全体を対象とした施策を検討してはどうか。また、現場の職員の処遇も充実すべきではないか。

総合政策課長 若者の起業や雇用の支援は重点戦略Cで、住環境への支援は重点戦略Aで取り組みます。職員の処遇の改善は、計画に盛り込むことは難しいと考えます。

問 活力ある地域経済の創造におけるキーワードは、「リピーター」だと思います。繰り返し利用する人を増やすための具体的な方策が必要ではないか。

総合政策課長 魅力的な施策やイベントの実施で、リ

ピート率の向上と交流の促進を目指します。

問 防災対策の推進では、東南海巨大地震を想定した対応も含まれるのか。財政計画では、平均して削減するのではなく「メリハリ」をつける争が重要ではないか。

総合政策課長 東南海巨大地震も含まれます。個別の計画は、地域防災計画の見直しで対処します。

財政計画は、以前から選択と集中の考えで行っている。行財政改革の進捗管理を的確に実施し、メリハリをつけて重点事業に投資できるように計画していきます。



人工透析患者の通院費

負担の軽減を

町長 重大な問題と認識している

井出清嗣



外出支援事業では、無料で小海町まで運んでくれる。当町でも研究しては。

健康福祉課長 財政事情もある。町・地域・事業者の役割分担の中で考えていきたい。

問 人工透析は回数が多く町内の病院ではできない。月に4万円以上通院費を支払っている人もいる。

町長 生活交通の体系を再度研究する必要がある。

問 社協が行っている福祉輸送サービスでは、透析の患者は断っていると聞いたが。

町長 制度があるのに一番困っている人が使えないのでは、制度とは言えない。

問 川上村では一回250円で村外まで行かれる移動支援事業がある。南牧村の

問 第二次総合計画基本構想(案)で第一次計画の理念(一水と緑のうるおい：...)を継承しなかった理由は。

町長 自治法改正により、国からの義務でなく自治体の自主性が尊重された中で計画策定において、他の自治体との違いを明確にするためにコミュニティ創生戦略の概念をあえて最上位に据えました。

問 財政事情というが、本当に困っている人はわずかだ。早急に結論を出して欲しい。

問 デマンドの行かない地区へも外出支援事業として週一回でも運行しては。

町長 10年経過したので、要望等を踏まえて再検討したいと考えている。

総合政策課長 現在行っていない筆舌区で区民総意の要望なら、運行業者と協議する用意はあります。

トピック

人工透析の患者数は、全国で32万人を超えており、平均年齢は約67歳となつています。

また、新規で透析を開始する方が毎年約1万人おり、その平均年齢は約68歳と平均年齢を超えています。

学校給食の主食を完全米飯にすることは考えられないか

町長 食育の観点から当分は現在の態勢を維持していきます
高見澤 春 野

千曲病院の現状

問 医師体制が心配。現状は。

町長 整形外科の常勤医がいなくなった状況です。木曜日休診ですが診療時間は変わりません。

病院事務長 眼科は博愛眼科での手術が当面難しくなった為、一日4例だったものが6〜7例に増えています。

問 夜間緊急体制、救急医療体制の充実が求められているが、どう考えているか。

町長 救急告示医療機関の指定を受けていますが、全ての救急患者さんを受け入れられるという基準ではありません。

問 新院長が新しく打ち出したものは。

町長 理念は変わりません。かかりつけ医として親身で丁寧な診療を対話あふれるチーム医療で実践していくとして、職員の医療意識の

統一化と向上を図っています。



給食の時代と共に様変わり

学校給食

問 主食を完全米飯にすることは、考えられないか。

町長 パン食、米飯食とも食事の取り合わせ、豊富な献立作成の点で重要な食育であります。パンの納入業者がなくなったり、経費が異常にかさむことがなければ当分は現在の態勢を維持していきます。





12年間の佐々木定男町政での成果は

町長

財政の立て直しと、保健福祉や医療の充実を実現できました

井出正臣

都市計画マスタープラン

問 町独自のマスタープランの策定が重要と考えるが。

総合政策課長 来年度からの町の新たな基本構想及び知事が指定した区域マスタープランに即して、着手を検討していきたいと思います。

問 まちづくりに重要な景観を担う窓口が生活環境係にあり、都市計画は総合政策課にあり、建設課にはこれにかかわる部署がない。県に即してこれらを建設課に一元化すべきでは。

町長 県の景観審議委員会も建設部にあります。前は違ったようですが、建設部に景観部門が移管されたように、町も変えなければいけないと思います。

12年間の振り返って

問 今任期での退任を表明された町長ですが、合併して12年間の町政を振り返って、その成果と課題は。

町長 最初は人と人。心の通

うまちづくりを示させてもらいました。二期目には経済的に暗くなりがちな地方が明るさを持ち続ける。最後は小さくても輝き続けるまちという思いで務めてきました。この目標に掲げたことはできたと思います。

【徹底した行財政改革】

合併当初は、借金約90億円、貯金約23億円だったのを、学校を作っても借金約76億7千万円、貯金約74億7千万円にまでに改善しました。

【福祉・保健・医療の充実】

地域で愛される病院としての千曲病院の再整備を中心として、民間による特養やグループホーム、指定管理による共同作業所など、近隣町村で一番整備されたと感じています。

【産業の活性化】

一番悔やまれるところです。商工業や農業についても、役場でやれることはやったが足りませんでした。結果として12年間でかなりの人口を減らしてしまいました。4月からの新町長にはしっかりと前を向いて、総合的な福祉の向上のため働いていただけではないかと、そんな気がしております。

新入団員確保に向け町としてインセンティブを

町長 現状では考えていない

高橋康徳



問 現在の440人という条例定数、団員規模をどのように考えるか。

町長 類似した町村と比較しても適正であると考えているが、定数見直しから10年経過していることや、少子高齢化を加味すると、分団再編成等を含め、見直しの検討が必要かもしれないが、単純に減少させることは出来ないと考えている。

問 「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」に基づき、消防団の装備の基準に関する消防庁告示が改正されている。財政状況が厳しい事は承知

しているが、どう対応していくのか。

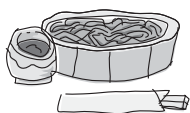
町長 平成26年からデジタルトランシーバー・救命胴衣等の配備を進めてきた。まずは団員の安全確保のための装備の充実が図れるよう、消防団の意見を聞きながら必要な資機材を配備したい。

問 栽培開始から4年目となるが実績は。

町長 25年1.5ha1.2t。本年は10ha5.5tと順調に推移しており、知名度も上がっている。

問 産地化の取り組みの目標は達成されたのか。

町長 栽培規模の関係から面積の大幅な増加は難しいが、産地化の目標達成はなされた認識している。



千曲病院救急搬送数は？

町長 平成27年度130台です

倉澤陽一



千曲病院の救急対応

問 搬送数に対して転送数は。

町長 130台で、転送数は9台です。

問 転送しなければならぬ理由は。

病院事務長 一度千曲病院で受け入れ、重症な患者と判断すれば転送します。

問 脳血管疾患の受け入れはできるのか。

病院事務長 時間外で検査技師の呼び出し時間を考え

ると、他の病院へ行ってもらうが、千曲病院でも受け入れています。

問 時間外で断るのは。

病院事務長 当直医が専門外の場合、お断りする場合が多くあります。

町長 夜9時までは検査技師を常駐させるとか、対応の充実は図れないか。

病院事務長 コストがかかりむずかしい。機能分化の中で担える医療は担っていきたい。

問 救急で診て、翌日転送したが心筋梗塞で亡くなった事例があった。医師のレベルアップも大事ではないか。

病院事務長 先生たちの目



千曲病院の救急対応は大丈夫か？

終わっちゃう

●千曲病院は、健康管理の面でも大きな役割を果たしています。医療の充実に住みたい町づくりにもつながると思います。町民の命をあずかる病院ですので、救急対応も含めて住民から信頼される病院になつていきたい。

企業版ふるさと納税の検討は

町長 民間企業の資金で地方創生事業が進むものであれば前向きに検討

小宮山 雅 則



企業版ふるさと納税

問 この4月に地方公共団体が行う地方創生の取り組みに対して、企業から資金を呼び込む企業版ふるさと納税制度がスタートしたが、検討されているのか、

町長 正式には地方創生応援税制と称し、現行の法人の寄付に係る損金算入措置による約3割の軽減効果と合わせて、寄付額の6割に相当する額が軽減されます。企業にとっても、自治体にとっても有利な制度です。民間企業の資金で地方創生

全国学力状況調査

問 全国学力状況調査結果を公表しない理由は何か。小中一貫教育を大きく掲げているからには、数値は別として、傾向ぐらいの公表はしても良いのではないかと、

教育委員長 数字が公表されると、ひとり歩きをし、本来の趣旨から離れていく傾向になります。数値結果を重視するのではなく、学校

事業が進められれば、財政難の町としてはありがたい。

総合政策課長 地方総合戦略である「コミュニケーション創生戦略」における事業については、当然企業版ふるさと納税の活用を検討してみるのは必要であると考えています。

平成27年度個人のふるさと納税実績

収入額	348万2千円
返礼品等支出額	68万7千円
差し引き収入額	279万5千円

が教育の成果を検証し、指導の改善に役立ていく教育の課程を大事にしたい。児童生徒がより良い社会生活を送るために必要な力を見極めながら学習内容の工夫にあたっています。保護者には、結果や分析、今後の取り組み等を伝えていきます。

（その他、病院事業、索道事業、老人保健施設事業について、経営の健全化に関する質問をしました。）

委員会活動から

委員会審査

総務文教常任委員会

平成 28 年度 一般会計補正予算

歳入歳出それぞれ 4,961 万 5 千円を減額する補正予算ですが、歳入の町税については、所得の伸び等により 4,480 万円の増額補正です。

(単位：千円)

項 目	補正前の額	補正額	計
町 民 税	434,523	34,300	468,823
固定資産税	490,688	8,000	498,688
軽自動車税	37,379	4,000	41,379
たばこ税	58,800	△ 1,500	57,300
町 税	1,021,390	44,800	1,066,190

歳出では、旧八千穂小学校跡地利用者の決定に伴い、用地境界測量委託、校舎解体工事設計委託（体育館等使用する一部の施設は除く。）、改修工事設計委託で 1,788 万 4 千円を計上、地域おこし協力隊員 2 名の予定が 1 名になり 392 万円の減額、特別会計への貸付金 4,000 万円を増額する補正です。

(全員賛成で可決)

平成 28 年度 特別会計補正予算

国民健康保険事業特別会計補正予算は、国庫支出金、療養給付費交付金の減額や保険給付費、共同事業拠出金の増額ですが、歳入不足により一般会計からの借入金 4,000 万円を増額し、借入金総額を 3 億 1,400 万円とする補正です。

(全員賛成で可決)

条例の一部改正

佐久穂町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正し、個人番号カードを使用して、コンビニエンスストアが設置する多機能端末機から印鑑登録証明書の交付申請を行う場合、印鑑登録証を提示せずに交付が受けることのできる旨を規定し、平成 29 年 3 月 7 日から施行。

(全員賛成で可決)

平成 29 年 3 月 7 日から個人番号カードを使い、コンビニエンスストアが設置する多機能端末機から、印鑑登録証明書、住民票、戸籍証明書（デジタル化されている戸籍謄本、戸籍抄本）、戸籍附票の交付を、全国どこでも受けることができようになります。

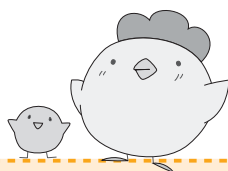
経済福祉常任委員会

一般会計補正予算 補正第 4 号

- 広域農道と大岳線交差点の交通安全対策費（カラー舗装と標識の設置）
- 台風 10 号による災害復旧費（大上線他）

一般会計補正予算 補正第 5 号

- IC 名称決定のずれ込みにより、大型案内板設置が延期となる他。



陳情第 8 号

最低制限価格の設定に関する陳情

■ 陳情者 ■

一般社団法人 長野県建築士事務所協会

会 長 小 河 節 郎

(賛成者なしで不採択)

農業委員会の委員の定数について

- 農業利用最適化推進委員が新設される。
- 農業委員会は、委員 16 名と推進委員 6 名の計 22 名の構成になり、選挙は廃止され町長の任命制となる。

病院事業会計補正予算 補正第 1 号

- 佐久税務署税務調査により、消費税の修正申告過年度分（平成 23 年度～平成 26 年度）555 万 8 千円の追加納付

障害者共同生活援助等支援施設指定管理者の指定について

- グループホームほほえみは、引き続き今後 10 年間特定非営利活動法人ウィズハートさくに。

陳情第 9 号

地域活性化の拠点となる小海高校の存続と 35 人以下学級の導入を求める意見書を県知事に提出するよう求める陳情

■ 陳情者 ■

長野県高等学校教職員組合 佐久支部

代 表 小 林 修 一

(全員賛成で採択)

平成29年 第1回臨時議会

平成29年1月16日

子どもセンター整備へ約9千万円の補正

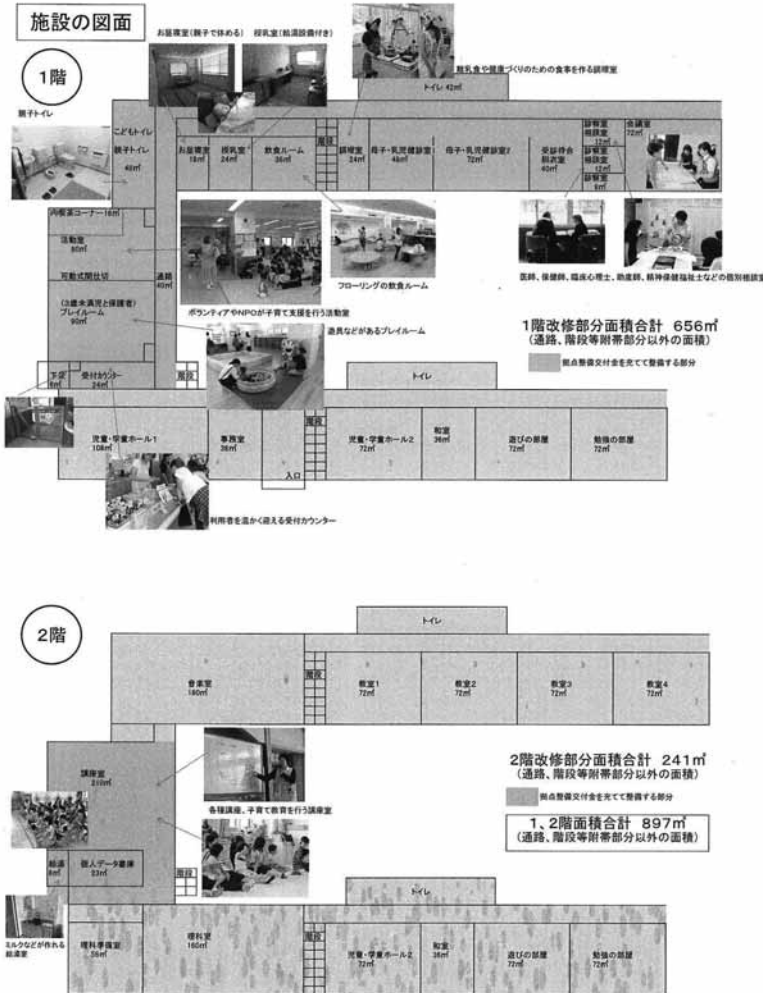
1月に招集された臨時議会には、9千万円を超える大型補正予算が上程され、全会一致で可決されました。

既定の予算に歳入歳出それぞれ9,289万4千円を追加し、総額を84億355万9千円とするものです。

この予算は、旧佐久中央小学校校舎を活用した（仮称）子どもセンター改修工事費で、9,946万8千円と、上区の竹のはな橋改修工事2,224万8千円などです。この改修工事費は、地方創生による拠点整備予算が国から交付されるものが主となります。

この子どもセンター整備は、地方創生の広域戦略「シャパンブランド健康長寿」事業の一環となっています。

既存の学童クラブ・児童館と一体となった、子育て支援拠点が計画されています。



設計前の仮の配置図です。

内部には、母子・乳児の健診室から、未満児が保護者と楽しめるプレイルームや、ボランティアやNPOが子育て支援を行う活動室など母親支援の充実も計画、想定されています。

町では、このセンターの担い手にもなりうる「子育て支援員」の人材育成を始めており、既に20名以上が研修を受けています。

12月定例会 賛否が分かれた議案・案件		井出正臣	高橋康徳	高見澤研二	佐々木正雄	倉澤陽一	倉澤治貴	小宮山雅則	岩崎正孝	岡部勝一	浅井正昭	小林守正	井出清嗣	高見澤春野	小林武	議決結果
議案 第77号	佐久穂町総合計画（第2次）の基本構想の策定について	○	■	■	○	○	■	○	■	○	△	○	■	■	○	原案可決
	佐久穂町総合計画（第2次）の基本構想の策定についてに対する修正動議	■	■	○	■	■	○	■	○	■	△	■	○	○	■	否決
陳情 第8号	最低制限価格の設定に関する陳情書	■	■	■	■	■	■	■	■	■	△	■	■	■	■	不採択
発議 第8号	佐久穂町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について	○	■	■	○	■	■	○	■	■	△	○	■	■	○	否決
発議 第10号	地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	■	○	○	○	△	○	○	○	○	可決

○賛成 ■反対 議長は採決しない

追跡

一般質問

そのあと、どうなった!?

あらゆる公共資産の現状

町は、要因として生活の変化に加え、20年以上経過したことによる老朽化により敬遠されているのでは、と解釈しますが、これに対し、大

規模改修を行ったところに入居者が確保できるかは難しく、費用対効果から、一部修繕により入居者を待つ状態です。

今や、利用もされていないのでは?と思われる教員住宅は20%を下回る入居率で、一般住民にも開放されていません。今後、若い先生の経済状況を考慮すると、教員住宅のまま準備・維持し続ける方針とのこと

です。



空転率が高まる町営住宅

町営住宅・教員住宅

定住促進や生活支援などが目的であった町営住宅も、生活様式などの変化により、空室が目立つようになってきました。家賃が所得に比べて決定される公営住宅が満室なのに対し、家賃が固定されている町単住宅等で2階建てのアパート型の入居率は低くなっています。

これまで学校跡地利用が一般質問されてきましたが、最近では空き室が目立つ町営住宅や、指定管理者が破産手続きを行い、使われていない白石荘などへの質問も見受けられます。対策などはあるのでしょうか? 「追跡」してみました。

白石荘

昨年の夏、指定管理者の経営不振による破産手続きの開始に伴い、現在も施設は閉鎖された状態が続いています。今後については、破産手続きの終了を待つ対応したいとのことですが、土地は借地が多く、吊り橋周辺の管理も行き届かない状況から、早い段階での結論が待たれます。

その指定管理者に管理業務を委託していた乙女の森バンガロー村も、携帯電話の電波が届かないこともあり、昨年度の年間利用者数は300人に満たず、空転率が高い状況です。

旧八千穂中学校は、公募1件があつたものの、条件が満たされず不成立となり、現在はグラウンドを高速道路工事の残土置き場と、しかば体育館の駐車場として利用しています。

旧佐久中央小学校は、児童クラブ・児童館に加えて子育て支援の拠点としての(仮称)子どもセンター整備が進んでいます。

旧佐久西小学校は、庁舎移転先候補地として、現佐久庁舎での建て替えなどを含めて、外部委託先により比較資料の作成を行っています。

その他の学校は「広く民間に公募をかける」とした結果、旧八千穂小学校は、学校法人吉沢学園が地球環境高校の野球部練習場として購入の意思を示し、現在売却に向けて協議を行っています。

学校跡地利用



閉鎖されたままの白石荘

旧佐久東小学校は、(株)グローバルキッズという全国で99の認可保育所を経営する会社が取得を希望しており、ここに学校法人を設立

し、独特な教育方法による私立小学校を開校することを目指す方向で話が進んでいます。



旧東小に子どもの声が戻るかも

POINT!

高度成長期を終え、人口構成も少子高齢化となった今、人々の生活や娯楽への大きな変化が、公共施設の稼働率や存続にも影響を示してきています。

ここに記載した以外にも多くの公共施設や公用地があり、時代に即した早い時期での行政判断が求められます。

その中で、一気に発生した学校跡地利用問題に関しては、非常に良い状況で解決へと進んでいると言えます。

新しい挑戦で思いをカタチに

11月に茂来館にオープンしたカフェを運営する コミュニティ **もらい** カフェ **大塚君江さん**



2年前、町の文化祭の時にこのロビーでコーヒーと手作りクッキーを出したんです。多くの方が集った場所に、カフェがあればなと思ったのがキッカケです。

町が県の元気づくり支援金を活用して茂来館に喫茶スペースを作るという話を聞き、「自分の夢を実現で

■カフェをやることになったキッカケは？

昨年の秋から茂来館のロビーに喫茶スペースがオープンしたのを、皆さんご存知でしょうか？

今回は、そちらで毎日カウンターに立つ「カフェもらい」の大塚君江さんにお話を伺いました。

きるのは今だー！」と思い応募しました。

■もともとの職業は？

町の保育園で給食を作っていました。調理師の免許を持っていたのですが、退職後に、まさかこんな形で役立つとは思いませんでした。

ロールケーキとシフォンケーキは、地元のそば粉を使って私が毎日作っています。仕込みと準備に手間がかかり、寝るのも遅くなりますが、それだけ愛情が入って、美味しくなっているはずですよ（笑）。

■いろんな方が来ると思いますが？

やはりお年を召した方が多いですね。そういった方々と楽しくお話しできるのがいいですね。

テーブルがあるのに、カウンターの椅子を持ってきた話をしていく方もいて、こちらが楽しんでいきます（笑）。

まだまだ知られていないと思うので、これから多く



■まだ始まったばかりですが、目標は？

これからメニューを増やしたり、場の雰囲気を作ったりしようという夢を持っています。3月からは田舎でカフェをやりたいかたという移住者の方が仲間に加わるので楽しみです。

茂来館の雰囲気を変えてくれた大塚さん。夢は語るものではなく、叶えるもの。この挑戦が発信や刺激になり、活力となって町の雰囲気までも変わればと、フワフワのシフォンケーキを頬張りながら思いました。

（書き手 井出正臣）

次回の3月定例会は **任期最後** の議会です 3月3日(金)～3月16日(木)を予定しております。

一般質問は3月8日・9日を予定しております。

今後の町の方向性を確かめるためにも、多くの皆様の傍聴をお待ちしております



早いもので、議員に選出していただき、四年が経とうとしています。

それぞれの議員が、この町の在り方や要望等を質問し、実行されたものもあれば、今後の課題とされたものなど、さまざまです。

学校の跡地の公募といった現実問題から、町の将来像を描いた総合計画の進捗状況を問うこともあれば、社会問題である女性管理職の登用計画を確認することもありました。

メガソーラー発電所計画への町の対応や白石荘の業務委託業者の経営破たん、防衛問題となるオスプレイの町上空飛行への反対など、多種多様な一般質問が行われてきました。

これまでの11回の定例会における一般質問の内容はすべて、質問した議員がそれぞれ要約し、「さくほ議会だより」へと掲載されています。

皆さんの身近にいる議員が何を考え、何を問うたのか、広報を読み返し、見直す時期なのかもしれません。